

GTR・AR

A E Fタイプギアモータ

取扱説明書



AG3シリーズ (脚取付タイプ)



AG3シリーズ (フランジ取付タイプ)



AH2シリーズ



AF3シリーズ

はじめに

このたびは、GTR-ARシリーズ(AEFタイプ)をお買い上げ
くださいます、まことにありがとうございました。
ご使用になる前に、正しく使っていただくための手引書として
この「取扱説明書」をお読みください。

- 本書の内容につきましては、将来予告なく変更されることがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期してありますが、万一不可解な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご一報くださるようお願いいたします。

安全上のご注意

- ギアモータの取り扱い、作業に習熟の方が行ってください。また、この取扱説明書に記載されている内容は、製品をご使用いただく前に必ず熟読し、充分にご理解いただく必要があります。
- 本取扱説明書は実際にご使用いただくお客様の手元まで届くようご配慮ください。
- 本取扱説明書は製品をお取り扱いいただく前にいつでも使用できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書では取り扱いを誤った場合、発生が予想される危害・損害の程度を、基本的に「危険」・「注意」のランクに分類して表示してあります。その定義と表示は次のとおりです。

 危険	取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合
 注意	取り扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合

なお、「注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

危険

(全 般)

- 爆発性雰囲気中では使用しないでください。爆発、引火、火災、感電、けが、装置破損の原因となります。
- 活線状態では作業しないでください。必ず電源を切って作業してください。感電のおそれがあります。
- 運搬、設置、配管・配線、運転・操作、保守・点検の作業は、専門知識と技能を持った人が実施してください。爆発、引火、火災、感電、けが、装置破損のおそれがあります。
- 人員輸送装置に使用される場合には、装置側に安全のための保護装置を設けてください。暴走落下による人身事故や、装置破損のおそれがあります。
- 昇降装置に使用される場合には、装置側に落下防止のための安全装置を設けてください。昇降体落下による人身事故や、装置破損のおそれがあります。

(運 搬)

- 運搬のために吊り上げた際に、製品の下方向へ立ち入ることは、絶対にしないでください。落下による人身事故のおそれがあります。

(配 線)

- 電源ケーブルとの結線は、取扱説明書にしたがって実施してください。違った端子に接続したりしますと、ドライバの破損や感電や火災のおそれがあります。
- モータ動力線、信号線を無理に曲げたり、引っ張ったり、はさみ込んだりしないでください。感電のおそれがあります。

- 電源は銘板に記載してあるものを必ずご使用ください。モータの焼損、火災のおそれがあります。

(運 転)

- 運転中、回転体(シャフト等)へは絶対に接近又は接触しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。

(日常点検・保守)

- 運転中の保守・点検においては回転体(シャフト等)へは、絶対に接近または接触しないでください。巻き込まれ、はさまれ、けがのおそれがあります。
- 点検時に取り外した安全カバー等を外したままに運転しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。

(ブレーキ部の点検・保守)

- 本運転をする前に電源を入、切してブレーキ動作確認をしてください。落下、暴走事故のおそれがあります。
- 昇降用にご使用の場合は、負荷を吊り上げた状態でブレーキの解放操作をしないでください。落下事故のおそれがあります。

注意

(全 般)

- ギアモータの銘板、または製作仕様書の仕様以外で使用しないでください。感電、けが、装置破損等のおそれがあります。
- ギアモータの開口部に、指や物を入れないでください。感電、けが、火災、装置破損のおそれがあります。
- 損傷したギアモータを使用しないでください。けが、火災等のおそれがあります。
- 銘板を取り外さないでください。
- お客様による製品の改造は、当社の保証範囲外ですので、責任を負いません。

(荷受時の点検)

- 現品が注文通りのものかどうか、確認してください。間違った製品を設置した場合、けが、装置破損等のおそれがあります。

(運 搬)

- 運搬時は、落下、転倒すると危険ですので、十分ご注意ください。

(据 付)

- ギアモータの周囲には可燃物を絶対に置かないでください。火災のおそれがあります。
- ギアモータの周囲には通風を妨げるような障害物を置かないでください。冷却が疎外され、異常過熱によるやけど、火災のおそれがあります。
- ギアモータには絶対に乗らない・ぶら下がらないようにしてください。けがのおそれがあります。
- ギアモータの軸端部、内径部等のキー溝は、素手でさわらないでください。けがのおそれがあります。
- 食品機械等特に油気を嫌う装置では、故障・寿命等での万一の油洩れに備えて、油受け等の損害防止装置を取付けてください。油洩れで製品等が不良になるおそれがあります。
- ギアモータにハンマーなどで衝撃を与えないでください。内部の部品が破損し、暴走する可能性があります。

(相手機械との連結)

- ギアモータを負荷と連結する場合、芯出し、ベルト張り、プーリーの平行度等にご注意ください。直結の場合は直結精度にご注意ください。ベルト掛けの場合は、ベルト張力を正しく調整してください。また運転前には、プーリー、カップリングの締付けボルトは、確実に締付けてください。破片飛散による、けが、装置破損のおそれがあります。
- 回転部分に触れないようカバー等を設けてください。けがのおそれがあります。
- 相手機械との連結前に回転方向または移動方向を確認してください。回転方向または移動方向の違いによって、けが、装置破損のおそれがあります。

(配 線)

- 絶縁抵抗測定は行わないでください。モータが破損するおそれがあります。
- 配線は、電気設備技術基準や、内線規定にしたがって施工してください。焼損や感電、火災、けがのおそれがあります。
- 配線における電圧降下は2%以下に収めてください。配線距離が長い場合は電圧降下が大きくなり、ギアモータが運転不可能な状態になります。

(運 転)

- ギアモータ単体で回転される場合、出力軸に仮付けしてあるキーを取り外してください。けがのおそれがあります。
- 相手機械との連結前に回転方向または移動方向を確認してください。回転方向または移動方向の違いによって、けが、装置破損のおそれがあります。
- 逆転をさせるときは必ず一旦停止させた後に逆転始動をしてください。ブラッキングによる正逆運転により装置破損のおそれがあります。
- 運転中、ギアモータはかなり高温になります。手や体を触れないようにご注意ください。やけどのおそれがあります。
- 異常が発生した場合は直ちに運転を停止してください。感電、けが、火災のおそれがあります。
- ギアモータに商用電源を直接供給すると、焼損します。商用電源をモータに供給しての試運転はできません。
- ギアモータは確実に機械へ固定してください。固定が不十分だと運転時に外れるおそれがあります。

(日常点検・保守)

- ギアモータの表面は高温になるので、素手でさわらないでください。やけどのおそれがあります。
- 異常が発生した場合の診断は、取扱説明書に基づいて実施してください。異常の原因を究明し対策処置を施すまでは絶対に運転しないでください。

(分解・組立)

- 修理、分解、組立は、最寄りの営業所または工場へご用命ください。感電、けが、火災等のおそれがあります。
- 電源を遮断し、モータが回転していないことを確認の上、3分以上経過してから点検を実施してください。感電する可能性があります。
- 通電状態で配線の導通チェックを行わないでください。

(廃 棄)

- ギアモータ、潤滑油を廃棄する場合は、一般産業廃棄物として処理してください。

目次

はじめに

安全上のご注意

目次

1. ご使用にあたり

1-1. 各部の名称と機能 P. 6

ギアモータ

1-2. ご使用前の点検と確認 P. 6

梱包内容の確認

2. 接続方法と設置

2-1. ギアモータの設置 P. 7

2-2. 各機器の接続 P. 8

2-3. 相手機械との連結 P. 9

3. 仕様、性能 P. 17

モータ仕様

電磁ブレーキ仕様

4. 保守、寿命 P. 17

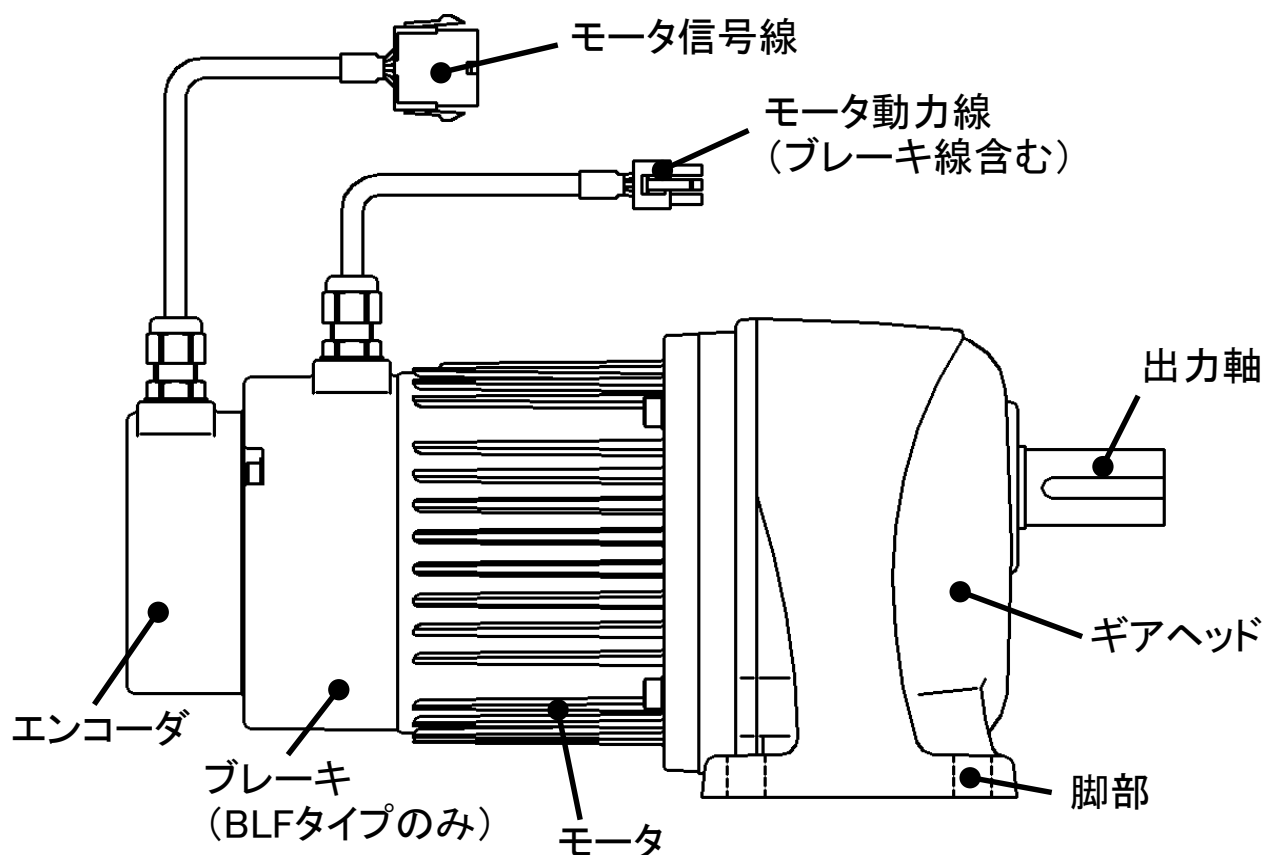
5. 動作不良の原因と対策 P. 18

6. 保証 P. 19

1. ご使用にあたり

1-1. 各部の名称と機能

■ギアモータ



1-2. ご使用前の点検と確認

■梱包内容の確認

梱包箱を開封されましたら、下記項目についてお調べください。

万一不具合なところがありましたら、お買い求めの購入店へご連絡ください。

(1) ご注文の品物と銘板に記載されている内容が間違いないかどうか。

(型式、減速比、モータ容量など)

(2) 運搬中に破損した箇所がないかどうか。

(3) ネジやナットはゆるんでいないか。

(4) 梱包内容

イ) ギアモータ

ロ) 取扱説明書(本書)

ハ) オプション品

2. 接続方法と設置

2-1. ギアモータの設置

(1) 据え付け環境

周囲温度： 0℃ ～ 40℃

周囲湿度： 85% 以下

高 度： 1,000m 以下

雰 囲 気： 腐食性ガス、爆発性ガス、蒸気などのないこと、じんあいを含まない換気の良い場所であること。

設置場所： 屋内

(2) 据え付け方向

方向の制限はありません。(グリース潤滑方式採用のため)

(3) 据え付け方法

①脚取付、フランジ取付

振動のない機械加工された平面(平面度0.3mm以下)に4本のボルトで固定する。

②軸上取付

●減速機の自重は被動軸で受けるようにしてください。

(トルクアームは回転反力以外の力がかからぬこと)

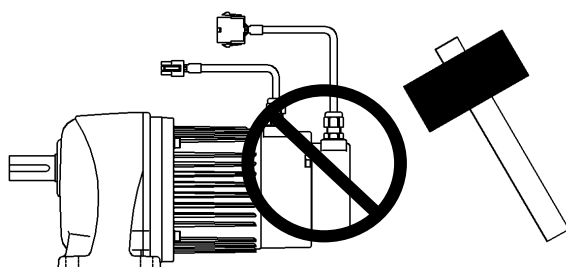
●起動・停止及び正逆転頻度が多い場合にはトルクアームの回り止め部にガタがないようボルトで締め付けてください。

(4) 締め付けトルク

取付穴 (mm)	ボルト径	締め付けトルク (N・m) { (kgf・m) }
5.5	M5	2.9 { 0.3 }
6.5	M6	4.9 { 0.5 }
8.5	M8	13 { 1.3 }
9	M8	13 { 1.3 }
11	M10	25 { 2.6 }
13	M12	44 { 4.5 }
15	M14	69 { 7.0 }
18	M16	108 { 11 }
22	M20	294 { 30 }

(5) 設置時の注意

ギアモータのエンコーダ部にハンマーなどで直接衝撃をかけないでください。
エンコーダを損傷するおそれがあります。



2-2. 各機器の接続

下図のように各機器を接続します。

接続するコネクタを間違えないように確実に奥まで差し込んでください。

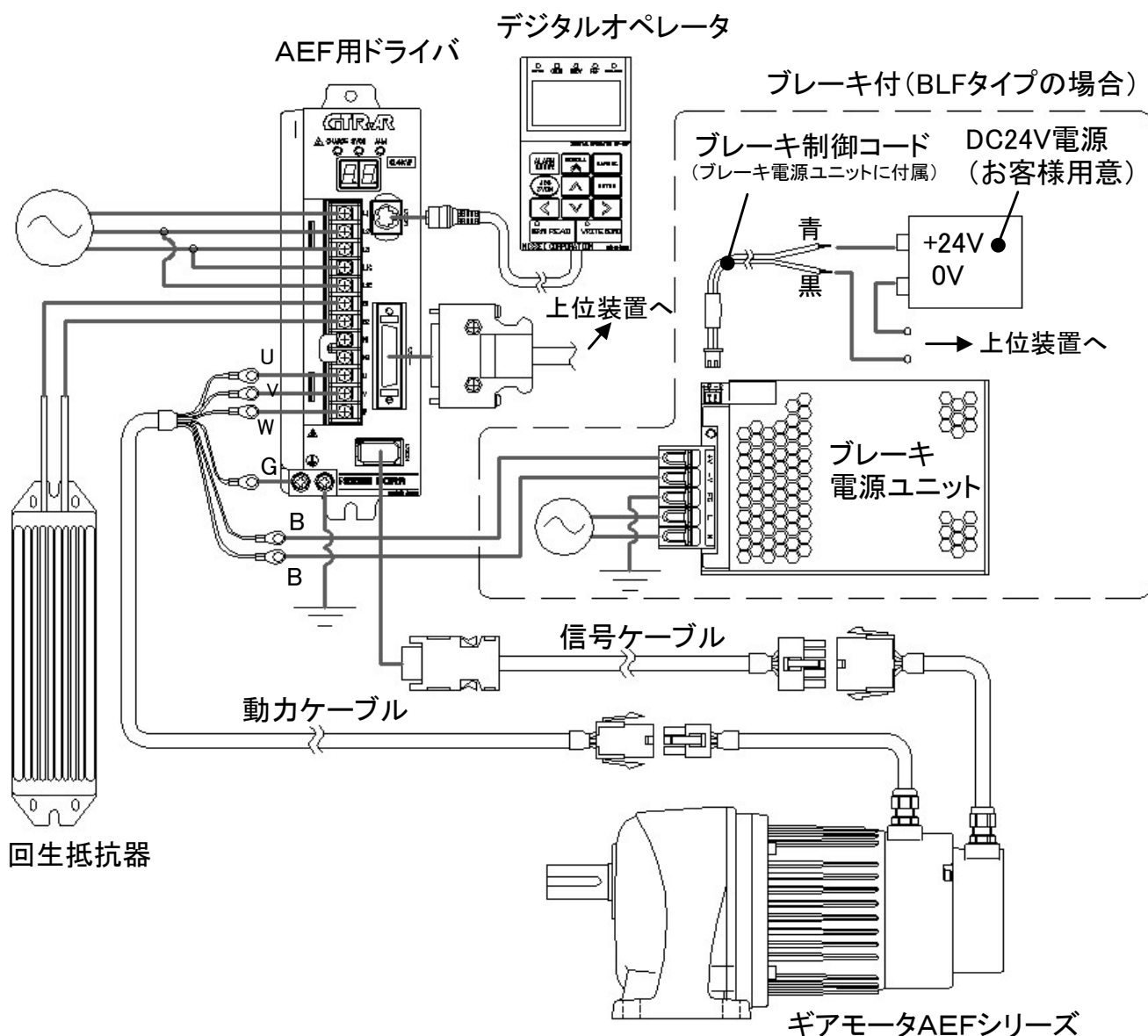
※ ギアモータとドライバを接続するには動力ケーブルと信号ケーブルが必要です。

※ ギアモータから出ているコードは200mmです。

※ 電源ONの状態のコネクタの抜き差しは絶対に行わないでください。

故障の原因となります。

※ BLFタイプ(ブレーキ付)を使用するには、オプションのブレーキ電源ユニットの他にDC24V(10mA以上)の電源が必要です。



ブレーキのON・OFFは、弊社オプション品を使わなくても、動力ケーブルのB-B間にDC24Vを加えることにより可能ですが、ブレーキコイルやリレー接点保護のためにバリスタ(82V、1J以上)またはダイオード(100V、1A以上)をB-B間に入れてください。

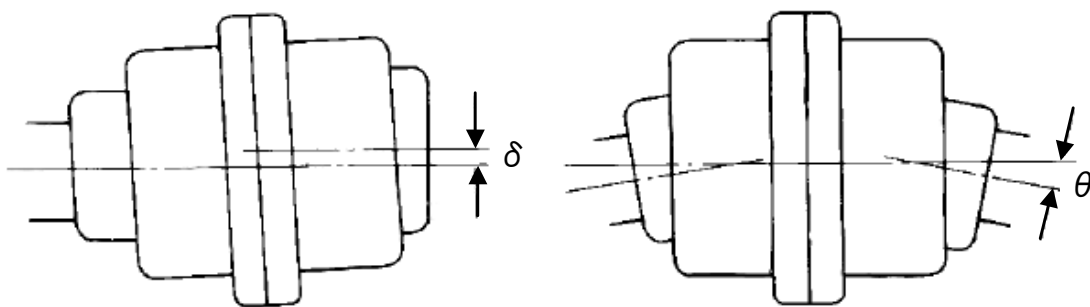
2-3. 相手機械との連結

減速機軸に取り付ける連結器(カップリング・スプロケット・プーリ・ギア等)の組付は、指定のキー材を必ず使用し、H7級程度のはめあいで行ってください。

1 直結の場合

相手機械の軸芯と減速機の軸芯は一直線になるようにしてください。

●ギアカップリングの例

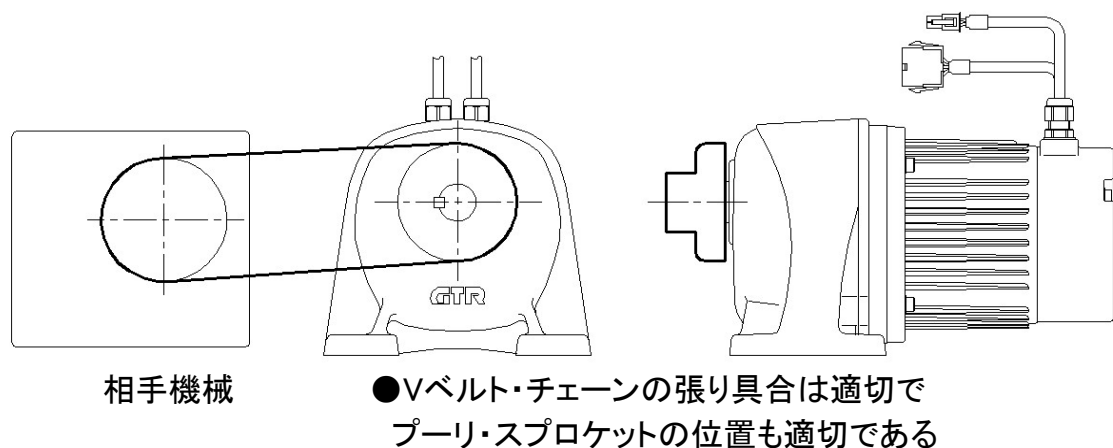


- 変位量 δ 、 θ について極力小さくおさえてください。
- δ 、 θ はカップリングの種類により異なりますので各メーカーの許容値以内としてください。
(参考:チェーンカップリングの場合 δ =ローラチェーンピッチの2%、 $\theta = 1^\circ$ 以内)

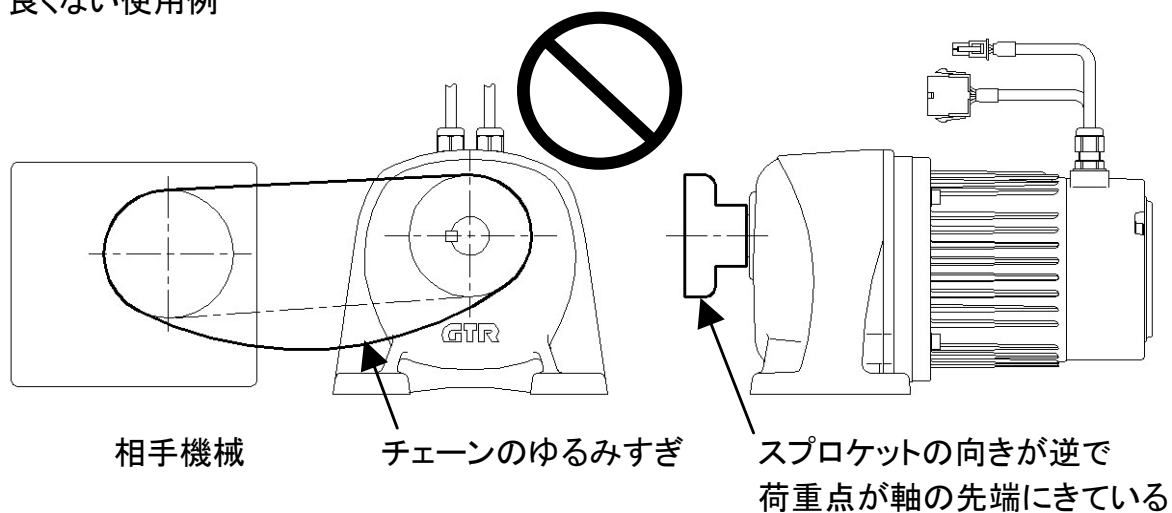
2 チェーン・Vベルト・ギア等の連結の場合

- (1) 相手機械の軸芯と減速機の軸芯は平行にしてください。
- (2) チェーン・Vベルトの張りギアのかみ合い軸芯と直角にしてください。
- (3) Vベルトの張り具合 — 張りすぎは軸受損傷の原因になります。
チェーンの張り具合 — 張りすぎは軸受損傷の原因になります。緩みが大きいと始動時に大きな衝撃力が発生し、減速機や相手機械に悪影響を与えますので、正しく調整してください。

適切な使用方法



良くない使用例



3 AF3Sタイプ 中空軸の取り付け・取り外し

●減速機の中空軸と被動軸との取り付けについて

- ① 被動軸表面及び中空軸内径に使用される環境に合った焼付防止剤(二硫化モリブデン等)を塗布し、減速機を被動軸に挿入してください。
- ② 均一荷重で衝撃が作用しない場合は、被動軸の公差はh7を推奨します。また、衝撃荷重がかかる場合や、ラジアル荷重の大きい場合は、はめあいをかたくしてください。中空軸の内径公差は、H8で製作してあります。
- ③ はめあいがかたい場合は、中空出力軸の端面をプラスチックハンマーで軽くたたいて挿入してください。この際、ケーシングは絶対にたたかないでください。また、下図のような治具を製作して頂ければ、よりスムーズに挿入できます。

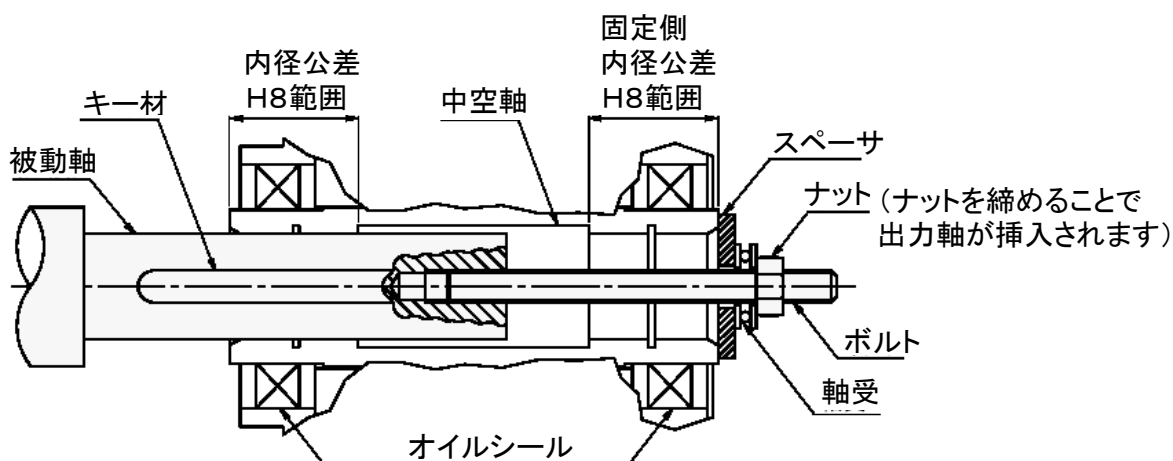


図-1

(スペーサ、ナット、ボルト、キー材、軸受け部品はお客様でご用意ください。)

- ④ 被動軸と回り止めキーの長さは、固定側の内径公差H8範囲にかかるようにすることを推奨します。
- ⑤ 被動軸のフレを、軸端で0.05以下になるようにすることを推奨します。運転時にフレが大きくなると減速機に悪影響を及ぼす可能性があります。

●減速機と被動軸の連結について

① 被動軸に段差がある場合

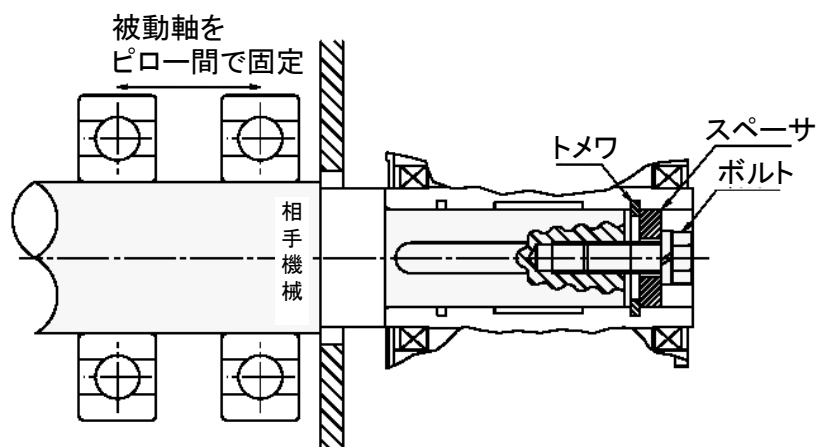


図-2 スペーサとトメワによる固定

(スペーサ、ボルト、トメワ部品はお客様でご用意ください。)

注)ボルトを締め込み過ぎるとトメワが変形する可能性がありますのでご注意ください。

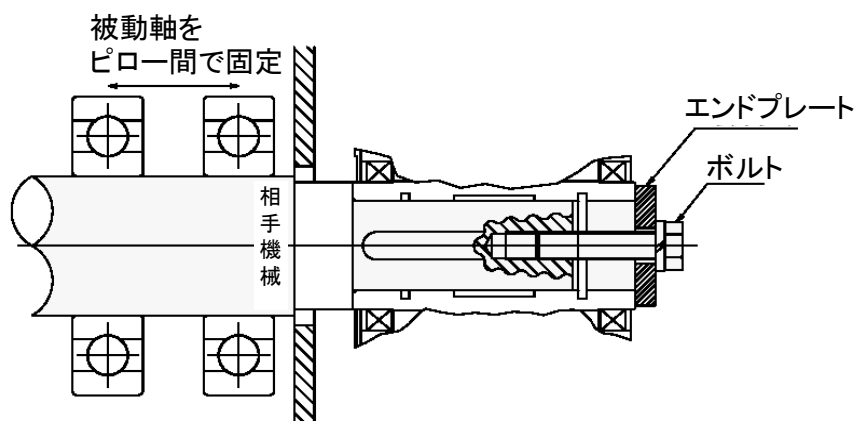


図-3 エンドプレートによる固定

(エンドプレート、ボルト部品はお客様でご用意ください。)

②被動軸に段差がない場合

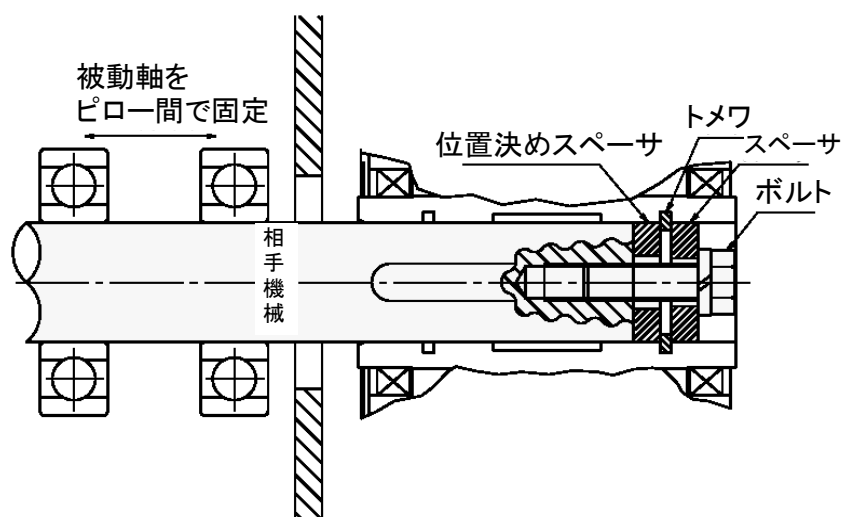


図-4 スペーサとトメワによる固定

(スペーサ、位置決めスペーサ、ボルト、トメワ部品はお客様でご用意ください。)

注) スペーサの外径と中空軸の内径は必ず隙間を空けるようにしてください。

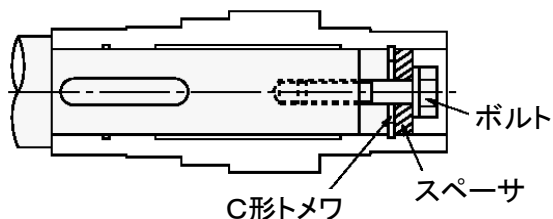
はめあいがきつかったり、スペーサの外径の精度が出ていないとこじる原因となり、被動軸と中空軸のフレが大きくなる恐れがあります。

位置決めスペーサは、減速機の位置決めに使用します。予め被動軸の長さ寸法が出ている場合は必要ありません。また、位置決めスペーサを設けることで中空軸からの取り外しがスムーズに行えます。

(中空軸からの取外しについては、次ページの図-5を参照ください。)

●被動軸固定部分推奨サイズ

一般的な用途における中空軸締結に際しては、強度面から右表寸法を目安として設計してください。



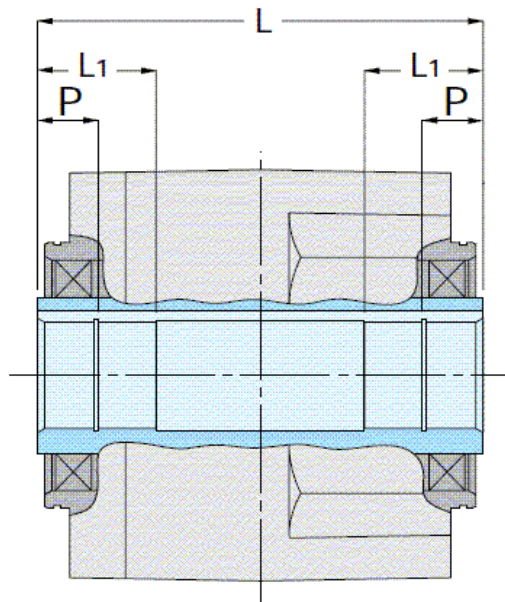
〈被動軸固定部分推奨サイズ〉 単位(mm)

中空軸 穴径	ボルト サイズ	スペーサ寸法			穴用C形 トメワ呼び
		外径	内径	幅	
φ 20	M6	φ 19.5	φ 7	3	20
φ 25	M8	φ 24.5	φ 7	4	25
φ 30	M8	φ 29.5	φ 9	5	30
φ 35	M10	φ 34.5	φ 11	5	35
φ 45	M10	φ 44.5	φ 11	5	45

●被動軸の長さについて

被動軸はL1部の両側にかかるようにしてください。(右図参照)

但し、〔中空軸からの取り外し〕時に必要なスペーサ寸法の余裕をみてください。



●被動軸のキー長さについて

キーの長さは中空軸の径の1.5倍以上にしてください。

また、キーを挿入する位置は、キー全長の1/2以上がL1にかかるようにしてください。(右図参照)

●中空軸からの取り外し

ケーシングと中空軸の間に余分な力がかからないようご注意ください。下図のような治具を製作してご使用して頂ければ、よりスムーズに取り外しできます。

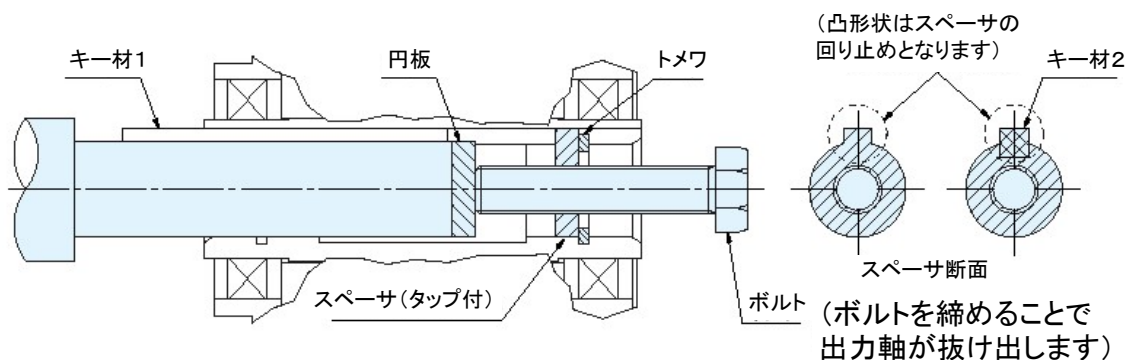


図-5

(スペーサ、位置決めスペーサ、ボルト、トメワ部品はお客様でご用意ください。)

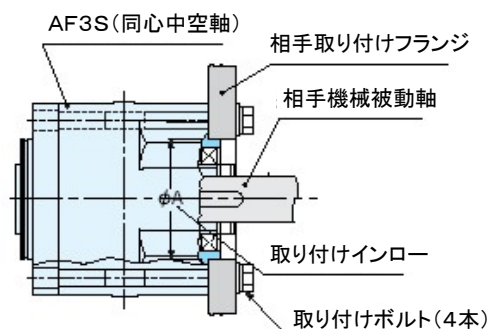
●減速機の取り付け方法について

フランジ取り付けとトルクアーム取り付けの長所と短所

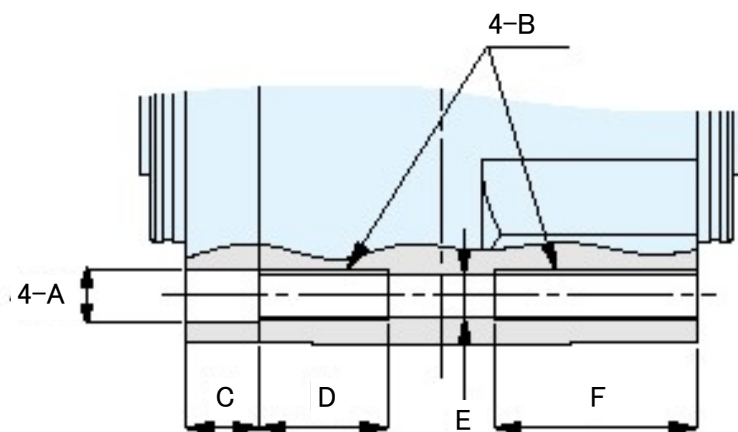
取り付け方法	長 所	短 所
フランジ 取り付け	・ 機械に直接取り付けが可能 ・ 省スペース化	・ 相手機械との芯出しが必要
トルクアーム 取り付け	・ 相手機械との芯出しが容易 ・ 相手機械との固定が回り止め 1箇所でよい	・ トルクアームが必要 ・ トルクアームの取り付け スペースが必要

●AF3S中空軸・フランジ取り付け

AF3Sで相手取り付けフランジ面に直接取り付けをされる場合は、芯ずれがありますとモータ焼け・ベアリング破損等の原因となりますので、芯出しは必ず行ってください。AF3には、右図のような取り付けインローがあります。取り付けインローφAの寸法公差は、h7になっています。取り付けボルトは右図のように取り付け、4本のボルトを使用してください。



●フェースマウント取付用タップ穴詳細図(標準仕様) 中空軸／中実軸共通



単位(mm)

枠番	減速比	容量	A	B	C	D	E	F
15(18)	1/10~1/160	0.1kW	φ 10.5	M10×P1.5	13	25	φ 8.6	38
25(22)	1/10~1/60	0.2kW	φ 10.5	M10×P1.5	15	25	φ 8.6	40
30(28)	1/10~1/60	0.4kW	φ 10.5	M10×P1.5	16	25	φ 8.6	41
	1/80~1/240	0.2kW	φ 12.5	M12×P1.75	16	30	φ 10.6	46
35(32)	1/5~1/60	0.75kW	φ 12.5	M12×P1.75	18	30	φ 10.6	48
	1/80~1/240	0.4kW	φ 16.5	M16×P2	18	40	φ 14	58
45(40)	1/80~1/240	0.75kW	φ 20.5	M20×P2.5	23	50	φ 17.5	73

※ 枠番のカッコの値はAF3Fです。

ボルトの必要掛かり代は、ねじの呼び(ボルト径)の2倍以上を推奨します。

(例:M10の場合、20mm以上推奨)

●減速機とトルクアームの固定について

ボルトサイズと締付けトルク

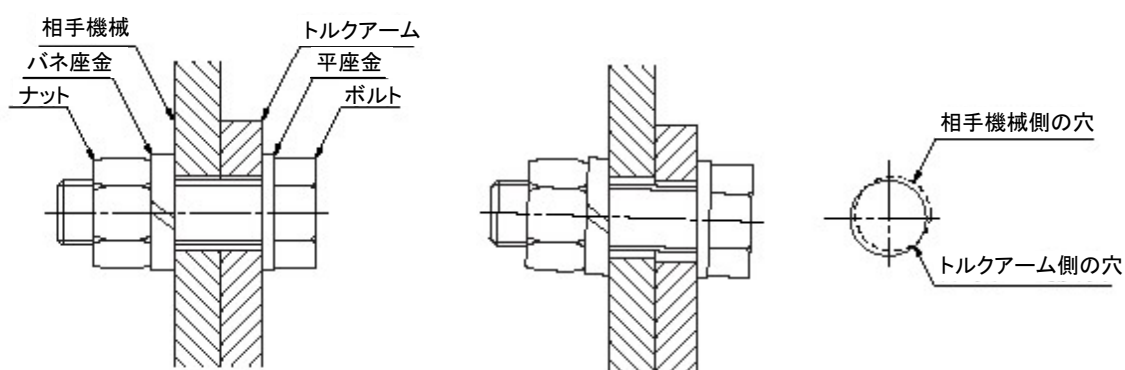
ボルトサイズ	締付けトルク (N・m) [(kgf・m)]
M8	13 { 1.3 }
M10	25 { 2.6 }
M12	44 { 4.5 }
M14	69 { 7.0 }
M16	108 { 11 }
M20	294 { 30 }

- ① トルクアームは回転反力を受けるため、特に起動・制動時の衝撃荷重を考慮して、十分強度のある板厚やボルトをご使用ください。
オプションのトルクアームをご利用頂ければ最適です。
- ② トルクアームと減速機の取り付けには、取り付けボルトにバネ座金と平座金で固定してください。
締付けトルクは右表をご参照ください。

●トルクアーム回り止め部の取付け方法

① 正逆運転の場合

トルクアームの回り止めをガタのないように固定してください。この時、回り止めの穴と相手方機械に芯ズレによって、被動軸と減速機の中空軸全体にラジアル荷重（懸垂荷重）がかからないことを確認してください。〈図-6参照〉



被動軸と中空軸に無理な力がかかり不具合の原因になります。

図-6 回り止めの固定

悪い例

注) 正逆運転または、起動停止頻度が多く取付けにガタがある場合は、起動の度に衝撃がトルクアームにかかり、取付けボルトの緩み等の不具合が発生する恐れがあります。

② 一方方向運転の場合

正逆運転のように頻繁に起動トルクがかからない場合は、トルクアームの回り止めを自由にして、ご使用頂くことも可能です。但し、被動軸と中空軸の固定は必要となります。〈図-2 ～ 図-4〉を参照ください。

この場合、相手機械と回り止めとの芯出しがラジアル・スラスト方向ともにガタにより十分隙間が確保出来ていることが必要です。〈図-7参照〉

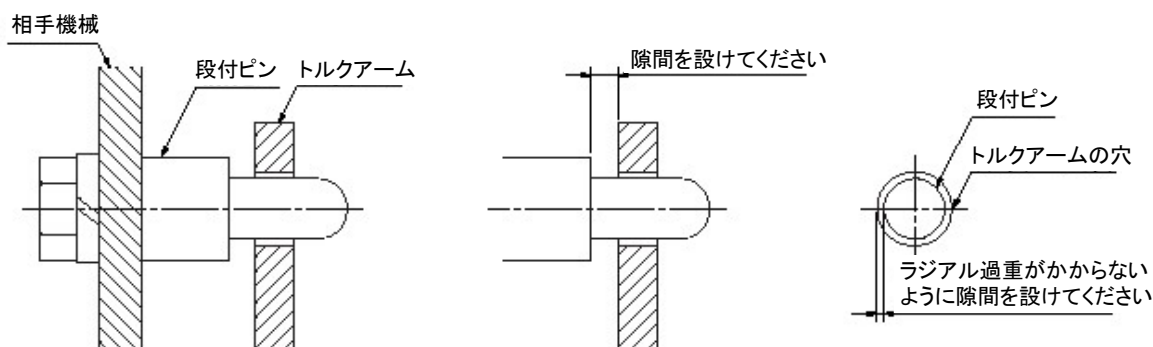


図-7 段付ピンを使用した例

3. 仕様、性能

①モータ仕様

●下記表に記載している定格電流はギアヘッドなし(モータ単体)の参考値です。

モータ型式		BLE010T2 BLF010T2	BLE020T2 BLF020T2	BLE040T2 BLF040T2	BLE075T2 BLF075T2
項目					
モータ方式		ブラシレスモータ			
定格出力 (kW)		0.1	0.2	0.4	0.75
定格電流 (A)		0.6	0.9	2.0	3.9
定格回転速度 (rpm)		2500			
速度/位置検出		インクリメンタルエンコーダ 2048 p/r			
構造		全閉自冷(IP65)			
時間定格		連続			
使用環境温度		0 ~ +40℃			
絶縁階級		B種			
ロータ慣性 モーメント	ブレーキ無し ($\text{kg}\cdot\text{m}^2 \times 10^{-4}$)	0.65	1.3	2.5	4.0
	ブレーキ付き ($\text{kg}\cdot\text{m}^2 \times 10^{-4}$)	0.77	1.4	3.0	4.25

②電磁ブレーキ仕様

モータ型式		BLF010T2	BLF020T2	BLF040T2	BLF075T2
項目					
ブレーキ形式		無励磁作動形(スプリングクローズ)			
保持トルク(モータ軸)(N・m)		0.57	0.95	1.76	3.43
励磁電圧 (±10%)(V)		24			
消費電流 (20℃)(A)		0.36	0.58	0.58	1.05
消費電力 (20℃)(W)		8.6	13.9	13.9	20.6

4. 保守、寿命

- 全機種グリース潤滑を採用しており、グリースの交換補給は不要です。
ギアモータは10,000時間を目安に設計しております。
- オイルシールは使用条件により寿命時間が変化します。
10,000時間以内でも交換の必要が生じることがあります。

5. 動作不良の原因と対策

動作不良が発生した場合には、下記要領にしたがって原因の究明・対策をお願いします。

故 障 の 内 容	原 因	対 策
無負荷状態で回らない	モータ強電線の断線	配線のチェック
	モータ信号線の断線・接続不良	配線・コネクタ部のチェック
	歯車・軸・軸受の破損	専門工場で修理
負荷をかけると回らない	モータ強電線の配線が長い	配線長さ、線径の確認
	歯車の磨耗	専門工場で修理
	過負荷運転	負荷を下げる
モータが異常発熱する	過負荷運転	負荷を下げる
	起動・停止頻度が高すぎる	頻度を下げる
	軸受けの損傷	専門工場で修理
運転音大きい	連続的な音- 軸受損傷・歯車磨耗	専門工場で修理
	断続的な音- 歯車の傷・異物噛込	専門工場で修理
振動大きい	歯車・軸受の磨耗	専門工場で修理
	据え付け不良・ボルトのゆるみ	締め直し
ブレーキが効かない	開閉器の不良	修理・交換
ブレーキの効きが弱い	摩擦板に油・ごみ等付着	専門工場で修理
	摩擦板の寿命	専門工場で修理
	負荷慣性モーメントが大きい	負荷を下げる
モータが回らない (速度が上がらない) モータが異常発熱する ブレーキ音大きい	ブレーキギャップが大きい	専門工場で修理
	ブレーキコイルの断線・短絡	専門工場で修理
	開閉器の接触不良	修理・交換

6. 保証

1. 保証期間

納入の日から18ヶ月または使用開始後12ヶ月間のいずれか短い方とします。

2. 保証範囲

- 1) 保証範囲は当社製作範囲に限定いたします。
- 2) 保証期間中、本取扱説明書に記載の正常な据え付け・連結及び取り扱い(点検・保守)のもとでの運転条件下にて、納入品の機能が発揮できない障害が生じた場合は、無償にて修理いたします。ただし、下記保証の免責に該当する場合は対象外といたします。

3. 保証の免責

- 1) お客様における解体や改造による損耗に対する修理、部品取り替えまたは代替品納入の場合。
- 2) 当社カタログ/取扱説明書記載の定格データまたは相互に合意した仕様を外れる条件下にて運転された場合。
- 3) お客様の装置との動力伝達部に不具合(カップリングの芯出し等)がある場合。
- 4) 天変地異(例:地震、落雷、火災、水害等)または人為的な誤動作など、不可抗力が障害の原因となった場合。
- 5) お客様の装置の不具合が原因である障害により二次的に故障に到った場合。
- 6) お客様より支給された、または指定の部品、駆動ユニット(例:電動機、サーボモータ、油圧ユニット等)が原因で障害が発生した場合。
- 7) 納入物の保管、保守保全管理が適切に行われず、取り扱いが正しく実施されなかった場合。
- 8) 上記以外の当社の製造責任に帰することの出来ない事項による障害。
- 9) 納入品の使用に際して、運転障害等によりお客様がこうむる休業機会損失並びに当社製品以外への損傷等の補償要求について、当社はその責任を負いかねます。

この製品について万一不都合な点、
お気付の点がございましたら、お買
い求め先または最寄の弊社営業所、
工場にご連絡ください。



株式会社 ニッセイ

本社工場

〒444-1297 愛知県安城市和泉町井ノ上1 - 1
TEL (0566) 92-5262 (代表) FAX (0566) 92-1159

東京営業所

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2 - 8 - 9
TEL (03) 3865-7681 (代表) FAX (03) 3865-7693

大阪営業所

〒543-0072 大阪市天王寺区生玉前町1 - 1 8
TEL (06) 6772-1900 (代表) FAX (06) 6772-0406

本部営業

〒444-1297 愛知県安城市和泉町井ノ上1 - 1
TEL (0566) 92-7410 (代表) FAX (0566) 92-7418